

綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

— 福島青年会議所新聞 —

福島青年会議所新聞

WEB版 Vol.505

発行責任者 今野 陽介
編集責任者 伊藤 大地
発行日：2018年2月

2018年度スローガン



感謝報恩、そして未来へ

～躍動せよ若き獅子たち～

■はじめに

1963年7月、福島青年会議所は「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下設立されました。創始の精神は、先輩諸兄から英知と勇氣と情熱をもって連綿と受け継がれ今日に至ります。創立55周年を迎えるにあたり脈々と紡いでこられた歴史を振り返るとともに、これからの未来に向かって躍動する年として参ります。我々の取り巻く環境は、東日本大震災を経験し、復興から自立した地域の活性化に向けて模索して行く中で、2年後には東京オリンピック野球・ソフトボール競技の福島市開催を控えるなど常に目まぐるしく変化し続けております。大局観をもって時流を捉え、今まで以上に地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開していかねばなりません。



第55代理事長
今野 陽介

■創立55周年を迎えて

福島青年会議所は、2018年7月に創立55周年を迎えます。今まで半世紀を超える長きにわたり、先輩諸兄の運動はもちろん、地域の皆様、会員一人ひとりに関わる会社・社員、家族など、全ての方々のご理解、ご支援があったからこそ

運動を継続することが出来ました。内外からの多大なる支えのもとに歴史を紡いでこられたことに感謝し、そのご恩に報いる時は今です。「感謝報恩」、その情熱を表す創立55周年記念事業、記念式典を創り上げ、次代に繋がる記念誌をこれまで携わった皆様と共有して参ります。

また、この記念すべき年に、先輩諸兄が紡いでこられた伝統を継承しつつ、青年らしく自由な発想で躍動し、福島というこの故郷だからこそやるべき、尚且つ福島青年会議所でしか出来ない、明るい豊かな未来に繋がる運動を展開して参ります。

■会員拡大 志を同じうする者

青年世代の減少、経済の停滞など不安要素は数多くあり、当青年会議所に限らず、近年全国的な会員減少に悩まされています。しかし、こんな時代だからこそ地域にとって、そして自己成長の場として青年会議所が必要であり、明るい豊かな社会を実現する為になくしてはならない存在であると確信しております。

自己研鑽と同時に明るい豊かな社会の実現を目指すという高い志。最終的に実現したいと目指すものが「目的」、その目的を達成するために具体的に設ける目印が「目標」であり、「志」とは公共性を携え心に思い決めた信念です。志を同じうする者、その「同志」を得る為に、着実に魅力を伝播して参ります。そして、一人でも多

くの方々に門戸を開き、共に成長する機会を創出致します。

■愛する我らが故郷のために

我々が住み暮らすこの地域がより良く、より愛される故郷となる為に…55年間、当青年会議所はその時代時代に必要とされる事業を数多く展開して参りました。過去への感謝、未来への志を胸に、目まぐるしく変わる環境の中で地域が求めていること、青年会議所が求められていることを的確に捉え、今一度既存事業を振り返り、今後の展開と取捨選択を熟考したうえで変化を恐れずに新たな一歩を踏み出す契機と致します。

そして、福島ならではのソーシャルストックの魅力を最大限に発信することで、市民が故郷に誇りを待ち、郷土愛が醸成される事業を展開して参ります。また、無償の愛を以って安心安全なまちづくりの一翼を担い、福島市社会福祉協議会との連携を密にし、会員同士の災害支援に対する意識の変革に尽力して参ります。運動を通して、市民が故郷をより愛し、またかけがえのないものであるという郷土の誇りを呼び覚まします。

■未来を担う子ども達へ

福島の明るい豊かな社会を担うのは、今の子ども達であり、地域活性化のためには若年世代の人口流出を防がなければなりません。それには先ず故郷である福島に生まれ育ったことに誇りを持つ社会にしていく必要があります。そして、この福島に住み暮らしたい、そう感じてもらえるよう魅力を発信し郷土愛を育む事業を展開致します。さらに、無限の可能性を秘めた子供たちが将来に向かって一歩前へ出る勇気を持ち、大きな夢を描くために、「わらしっ子塾」事業を開催し、夢を叶える原動力となる志を創出して参ります。また、健全な心身を育むために、「わんぱく相撲」を開催し、夢と希望をもつ大切さとグッドルーザーの精神を涵養^{かんよう}して参ります。未来を担う子ども達^{こどもたち}が、郷土愛に溢れ、夢を描ける故郷の実現を叶えるべく邁進致します。

■郷土愛育むまつりを内外に発信

昨今、福島のまつりと言えば「福島わらじまつり」と、全国のみならず世界にも発信する場面が増えて参りました。この好機を活かし、福島の魅力^{魅力}を全国各地、世界に発信するという志で積極的に参加致します。また、福島のシンボル信夫山から派生している暁まいりやわらじまつりを通して、関わりのある団体・コミュニティとのご縁を大切にし、積極的に交流を図ります。さらに、わらじ作りを通して、地域のシンボルとしての「福島わらじまつり」を市内外に浸透させることも命題に掲げ伝播します。そして、まつりを今まで以上に大人から子供まで多くの市民が参加していけるよう取り組み、より故郷の文化・伝統に誇りを待ち、郷土愛を育むことの出来る機会と致します。

■堅実なL O M運営と福島青年会議所の浸透力

節目となる本年、今一度気持ちを新たに会員一人丸となって堅実なL O M運営に向けた取り組みをして参ります。また、新入会員を迎え拡充していく中においては、常に会員個人の知識を深め、資質向上を図る事は必須です。例会を通して、人財教育から組織充実を図ります。さらに、我々が行っている青年会議所活動の内容と運動の志を様々な媒体を通して少しでも多くの方々に伝播していくことで、価値を最大限に引き上げ、より頼られ求められる組織へ昇華します。堅実なL O M運営と会員の人財教育が会の礎となり、対外へ運動を広く発信することで運動の浸透力を高めます。

■未来を描く一年に

公益法人格を取得し5年。その当時の苦労を知る者は、今や決して多くはありません。公益法人格維持継続の重要性を再認識することが必要です。そして、青年会議所運動が最大の効果をもってまちの発展に寄与するために、将来への中長期的な運動指針を策定し、より幹のしっかりとした骨太な運営体制を確立致します。

■結びに

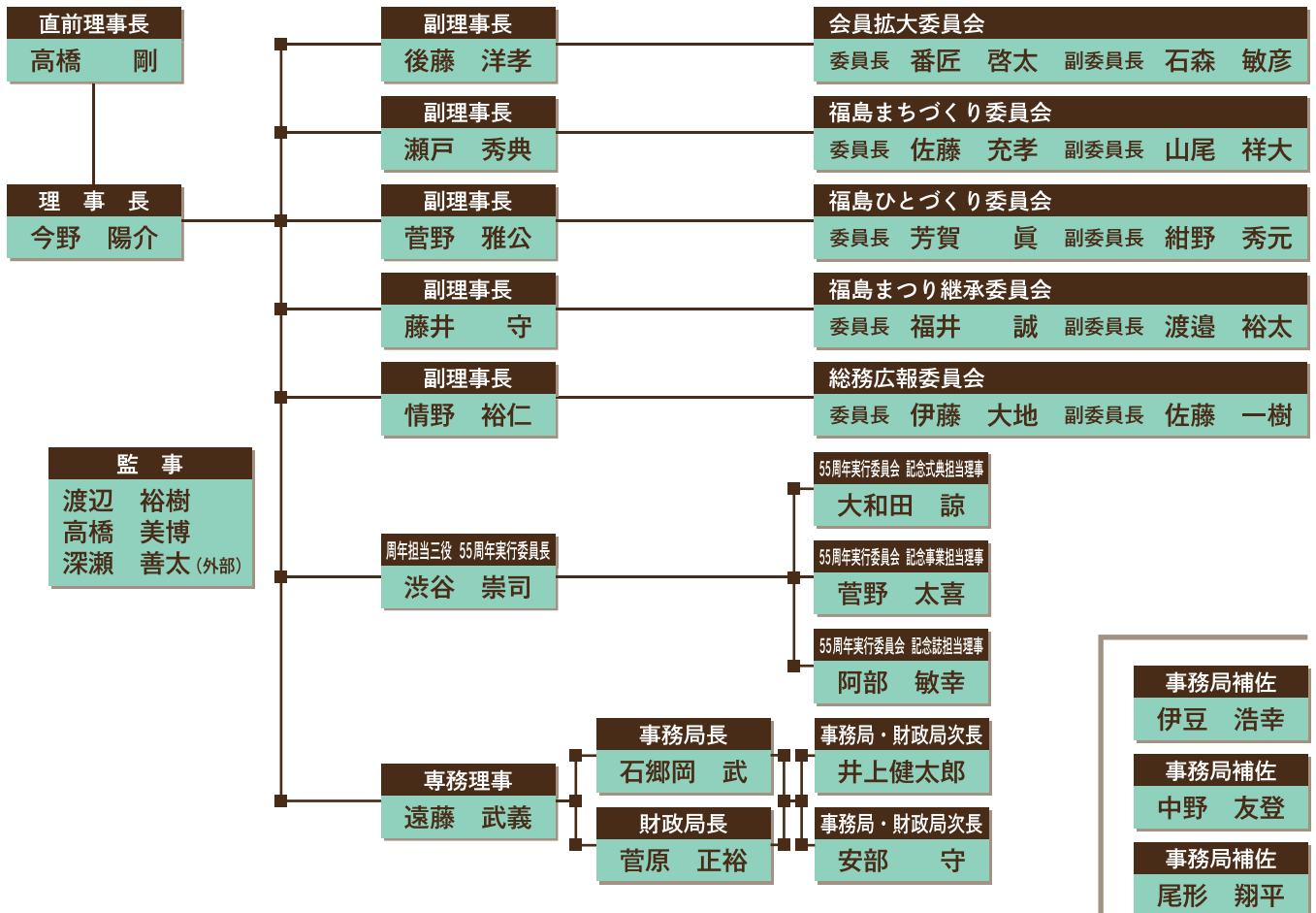
歴史を振り返り、新たなる一步を踏み出すこの機会に、個として、会として感謝報恩の精神を宿し、己を律する土台の上に、「楽しくなけりゃJCじゃない」という心待ちで会員一人ひとりが

躍動する一年として参ります。まさに我々躍動する若き獅子（志士）たちが、自ら楽しんで取り組むことで故郷を、そして福島青年会議所を最大限に発信し、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち福島を実現致します。

優しくある為に強くあれ
我々が率先して躍動することで未来を切り拓く
全ては愛する仲間と誇りある福島のために



2018年組織図



55周年実行委員会



委員長 渋谷 崇司

副委員長 大和田 諒

菅野 太喜

阿部 敏幸

■委員会スローガン

Thanks a Go-Go!
～福島JC 創立55周年～

1. 55周年記念式典の開催
2. 55周年記念事業の開催
3. 55周年記念誌の作成
4. 55周年記念に関わる一切の取りまとめ及び実施
5. 会員拡大運動の実施
6. 報告書の作成

福島青年会議所は、2018年7月で創立から本年で55年目を迎えます。先輩諸兄が脈々と受け継いでこられた歴史、そして支え続けてくれた関係団体の方々、また身近な存在と、多くの人達によって今日に至ることができました。55年という節目に、その感謝の想いを伝え、そして次なる60周年へ繋げるべく運動、活動を展開して参ります。

会員拡大委員会



副理事長 後藤 洋孝

委員長 番匠 啓太

副委員長 石森 敏彦

委員 尾形優一郎 杉本 渉
菅野 誠也 丹治 久仁
齋藤 久志 中野 友登
SAINBUYAN ODBAYAR 諸橋賢太郎
酒井 隆弘 吉田 潤平
芝田 裕哉

■委員会スローガン

BE A PIONEER!
～開拓者たれ～

1. 会員拡大運動の実施・統括
2. 2018年度12月時点での総会員数110名必達（仮入会者を含む）
3. 入会予定者セミナーの開催
4. 会員資質向上のための研修の開催
5. 京都会議の引率・参加の取りまとめ
6. 2月例会の開催
7. 報告書の作成

より魅力的な組織として青年会議所が明るい豊かな社会を築くために、会員の資質を向上させ、会員一人ひとりが責任と自覚を持って拡大運動を展開していきます。まずは全会員が仲間意識を持って拡大運動ができる環境を整えます。メンバーがコミュニケーション能力を向上させ、営業に対する考え方を身につけ、より魅力的な青年として成長することで地域に対しても貢献でき、会員の拡大につなげます。また、拡大対象の裾野を広げ、発信力を強化し、柔軟な手法で拡大運動を行います。我々と同じ志を持つ仲間を増やし、会員の資質を向上させることで感謝の気持ちを忘れず地域へ貢献できる人財となり、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち「福島」を実現します。

福島まちづくり委員会



副理事長 瀬戸 秀典

委員長 佐藤 充孝

副委員長 山尾 祥大

委員 伊豆 浩幸 神保 卓朗
尾形 彰彦 鈴木 正人
駒田 晋一 土屋 令雄
斎藤 秀人 並河 暢彦
佐藤 卓宏 新村 隆文

■委員会スローガン

未来へつなぐまちづくり

1. 福島市のソーシャルストックを活用した郷土愛を醸成する事業の開催
2. 災害時支援相互協力協定の深化
3. とうろう流し花火大会の設営・運営・参画
4. 会員拡大運動の実施
5. サマーコンファレンスの引率・参加の取りまとめ
6. 4月例会の開催
7. 報告書の作成

.....

私たちの住む福島市は、美しい自然と豊かな農作物に囲まれた素晴らしいまちです。しかし、若年層の市外流出や様々な要因により取巻く環境は日々めまぐるしく変化し、少子高齢化などその将来にはいくつもの不安を抱えています。そのような状況の中で、未来へ持続し、地域に求められるまちづくりに真に必要なものとは何かを熟考しながら率先して行動し、地域の人々が故郷をより愛し、各々が持つ郷土への誇りを呼び覚ますことで、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち「福島」を実現します。

福島ひとづくり委員会



副理事長 菅野 雅公

委員長 芳賀 眞

副委員長 紺野 秀元

委員 安齋 源 佐藤 大吉
太田 暁雄 佐藤 孝明
尾形 茉耶 丹治 史博
菊地 幸治 籙野 良美
齋藤 栄太 渡辺 忍

■委員会スローガン

笑顔の先にある 確かな夢の実現へ

1. わらしっ子塾の開催
2. 郷土愛を育む事業の開催
3. わんぱく相撲の開催・引率（LOM・ブロック）
4. 会員拡大運動の実施
5. 全国大会の引率・参加の取りまとめ
6. 10月例会の開催
7. 報告書の作成

.....

わらしっ子塾、わんぱく相撲を通じて、福島の次世代を担う子供達に、夢中になれる、本気になれる機会を提供し、先にある確かな喜びと感動を通じ、一人ひとりが郷土愛と将来の夢を抱けるよう応援して参ります。笑顔で夢を叶えられるまち『福島』の実現へ向けて共に歩んでいきましょう。

福島まつり継承委員会



副理事長 藤井 守
委員長 福井 誠
副委員長 渡邊 裕太

委員 赤間 亮介 佐藤 海華
阿部 知浩 高野 智宏
阿部 真澄 高橋 貴之
遠藤 翼 新田浩亜吉
大宮 篤 山際 喬紘
尾形 翔平

■委員会スローガン

**福島のために…やったれ！
そして、やったる！**

1. 福島の伝統文化を伝え故郷の魅力を発信する事業の開催
2. 地域団体とのまつりを活かした交流の推進
3. 福島わらじまつりの発展に関わる事業への参画
4. 会員拡大運動の実施
5. 東北青年フォーラムの引率・参加の取りまとめ
6. 6月例会の開催
7. 報告書の作成

福島を代表する祭りである「わらじまつり」が全国的に認知されてきました。しかし、時代の経過と共にまつりの歴史的背景や由来は薄れているように感じております。委員会事業を通して市民一人ひとりが「わらじまつり」の伝統や文化に触れ、福島のソーシャルストックである「日本一の大わらじ」を日本、そして世界へ発信すべく、関係団体と協力し、故郷の祭りである「わらじまつり」や伝統ある「暁まいり」を開催し、福島を盛り上げて参ります。

総務広報委員会



副理事長 情野 裕仁
委員長 伊藤 大地
副委員長 佐藤 一樹

委員 太田 憲一 高子 芳典
檜村 圭亮 野尻 伸吾
菊池 謙 柳沼 綾
岸 秀樹 山本 英佑
澤田 健 渡邊 恒博

■委員会スローガン

**支える力、拡げる力、背中で語る55年の矜持
～なくてはならぬ存在感～**

1. 総務に関わる一切の業務及び諸会議の議事録作成
2. 福島JCホームページの運営・JCニュース発行
会員向けメルマガ（Web版）・SNSを活かしたLOM運動の発信
3. 例会の設営・運営
新年会（1月）・3月・5月・7月・8月・9月・11月・
卒業式（12月）の開催
4. 全国JCネットワークとの交流
5. 会員拡大運動の実施
6. ブロック大会の引率・参加の取りまとめ
7. 報告書の作成

本年55周年を迎える福島JCにおいて、紡がれた歴史を継承しつつJC綱領にもある「明るい豊かな社会」を実現すべく活動を展開するため、総務広報委員会として堅実なLOM運営の下支えと効果的な広報活動をしてまいります。まずは、例会の設営・運営を行うことで、福島JCメンバーの絆醸成をします。そして、講師講演を開くことで会員の知識・資質向上を図ります。さらに今まで以上の発信力を持つべく、新たな広報手段を用い、地域や全国に向け活動・運動を拡げてまいります。そのために、総務広報委員会メンバーが積極的にJC活動に参加し、事業をサポートする委員会としてまいります。そしてキャピタルJCとしての矜持を胸に、伝統に感謝し、変化を楽しむ一年にまいります。

綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

— 福島青年会議所新聞 —

福島青年会議所新聞

WEB版 Vol.506

発行責任者 今野 陽介
編集責任者 伊藤 大地
発行日：2018年5月

第6回 暁まいり福男福女競走

2018.2.10 [SAT]



2018年2月10日（土）福島市信夫山にて第6回暁まいり福男福女競走が行われました。福島市の伝統行事、羽黒山の山頂に鎮座する羽黒神社の例祭「信夫三山暁まいり」は、300有余年に渡って「五穀豊穰」「家内安全」「身体強健」「縁結び」を祈願する祭事として、かつては毎年10万人以上が訪れ、大変な賑わいを見せていました。しかし、現代では「暁まいり」の起源や創始の思いが色褪せ、市民の関心も徐々に希薄化してしまっていました。そこで、「暁まいり」の起源や由来を発信し知名度を上げ、当時の賑わいを取り戻すべく、「暁まいり福男福女競走」の実施に至りました。

第1回目よりメディアに取り上げられ反響が大きく、昨年開催の第5回目では参加者数が450名を超え徐々に知名度が拡大し、今年は613名の申し込み、実質参加者500名で開催しました。今回は民放4社以外にもNHKでも取り上げられ、ケーブルテレビではタイムリーにYouTube内で中継もアップして頂いたことから、年々事業の注目度が増していることが実感できました。「暁まいり」の由来や歴史を発信し、伝統ある「わらじ文化」を伝承する一助になれたと思います。

このレースでは、信夫山山麓噴水公園前大鳥居付近をスタートに、羽黒神社をゴールとした競走で、参加者にわらじを配布し、願いを込め羽黒神

社に奉納してもらう事で、競走自体を参拝にすることができ、一番にわらじを奉納するために競走を行うという意味合いを持たせています。

福男福女になった

方には、羽黒神社にてお祓いを受けて頂く。これにより、一番になった際の御利益を演出、羽黒神社をパワースポットとして発信する。また、1位の福男福女には米俵を担いでもらい、各メディアに撮影して頂くことで暁まいりが健脚祈願だけでなく五穀豊穰祈願の意味合いもあるという事を広く認知させることが出来たと思います。昨年同様にカップル賞を設け、昨年のカップル賞受賞者は、なんと今年夫婦として参加していただくなど、恋愛成就を体現していただきました。また、コスプレをする参加者も増えていることから、コスプレ賞を設け、わらじまつりや暁まいり、信夫山に由来したコスプレをしてきた方の中で一番パフォーマンスが高い参加者を表彰いたしました。



第6回信夫三山暁まいり 福男・福女競走 スタート
福島 NCV · 30人が視聴中
👍 3 🎧 0

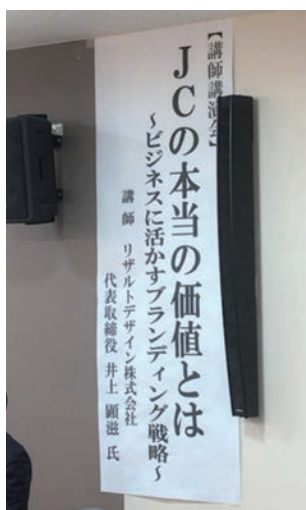


開催を担当した福島まつり継承委員会の福井誠委員長より一言「まず、本事業を開催するにあたり、多くの会員メンバー、関係諸団体の皆様より多大なるご協力を頂きました。また、昨年の数を上回る企業様、個人様よりご協賛を頂きました。感謝申し上げます。昨年は初めてテレビCMを採用し、462名の参加者を集めることが出来ました。今回はテレビCM無しでの事業告知となり、昨年の参加者数を超えることが出来るか正直不安でした。しかし、継続事業という事もあり口コミで話題に取り上げられたこと、市役所様と連携し市内全ての小中学校にポスターを配布出来たこと、そして、福島ユナイテッドFC様をはじめ保健福祉センター様など団体での参加登録を頂いたことで過去最高となる500名の参加者を集めることが出来ました。これにより、広報に予算をかけなくても十分に伝播力のある知名度の高い事業だという事が実証できたと思います。さらに、民報4社はもちろん、NHKやNCVケーブルテレビでも事業の様子が放映され、NCV様に関してはYouTubeにてタイムリーに事業の様子がアップされました。

マスコミ各社にて特集まで組んで頂き、昨年以上の放映時間だったことも本事業の話題性を象徴する結果だと思いました。また、今回の事業内容については暁まいの由来を知って頂くために、わらじを持って走ることで健脚祈願を表現し、福男福女が米俵を担ぐことで五穀豊穡祈願を表現させて頂きました。そして、カップルで手を繋いで競走してもらう事で縁結び祈願を表現させて頂きましたが、昨年カップルで参加されたペアが今年はめでたく夫婦となり参加して下さいました。参加者アンケート結果では9割の参加者から理解できた、興味が出たとの回答を頂いており、事業目的が十分に達成され、事業が大成功だったと確信しました。継続事業として知名度、話題性ともに年々高まっている本事業ですが、予算、運営体制、運営規模など今後どのようなビジョンを持って展開していくのか、そして、暁まいり自体の参拝客をどう増やしていくか等、しっかり次年度以降に引き継いで行きたいと思っております。本当にありがとうございました。

2月例会

2018.2.27 [TUE]



2018年2月27日(火) アクティブシニアセンター AOZにて2月例会を開催しました。例会後に「JCの本当の価値とは～ビジネスに活かせるブランディング戦略～」と題し井上顕滋さんに講演いただきました。講演では、会員拡大に必要なブランディング戦略とはなにか？青年会議所の魅力とはなにか？についてグループ討議を行い、その魅力を対外へ発信する発表を行いました。





4月6日～8日台湾にあります姉妹クラブの南投JCに、行ってまいりました。今回の訪問は、今野理事長を始めOB 5名を含む総勢21名で、7月28日に開催予定の公益社団法人福島青年会議所55周年記念式典の「招待状」を、お渡しに行っていました。初日4月6日に台北入りし、夜市など台湾の文化を見学し、翌7日の朝南投よりバスにて、林会長を中心に多くのメンバーがお迎えに来ていただきました。車で台北より約3時間、南投市は台中市よりやや南に位置する市で、福島JCとの絆は約半世紀になります。互いに周年式典の招待・来訪を交わし、友情と絆を育んできた仲間です。

今回は途中、「日月潭」という台湾で最大の湖

を観光し、非常に透明度の高い湖に感動いたしました。

南投市には夕方に到着し、さらに多くの南投JCメンバーによる歓迎を受けました。南投ホテルにチェックイン後に歓迎会会場へ、会場には歴代の会長を始め、OBや多くの現役メンバーが我々21名を歓待くださいました。会では友好の品として福島より持参した「五月人形」そして「55周年記念式典の招待状」を無事お渡しすることが出来、その後の懇親会でも多くのメンバーと交流を深めることが出来ました。

7月の記念式典には林会長を始め多くの皆様で福島に来訪いただけることをお待ちしております。



綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース

FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE

— 福島青年会議所新聞 —

福島青年会議所新聞

WEB版 Vol.507

発行責任者 今野 陽介
編集責任者 伊藤 大地
発行日：2018年7月

第31回 わんぱく相撲

5.12 [土] 6.24 [日]



2018年5月12日 福島市十六沼体育館にて第31回 わんぱく相撲福島場所が開催されました。主催は福島JC、福島県北相撲協会となっております。勝ち抜いた選手は県大会、更に勝ち抜くと両国国技館にて行われる、全国わんぱく相撲大会に進める大会となっております。

結果、丹治君が全勝優勝となりました。6月24日ブロック大会(県大会)が原町にて開催されます！

2018年6月24日(日)南相馬市にて、わんぱく相撲福島ブロック大会が開催されました。50名近くのジュニア力士が集まり、今年も盛大に開催となり、白熱した取り組みが行われました。

このブロック大会の上位者は、両国国技館で

行われる全国大会に出場となります。

結果は、福島市から出場した丹治純くんが優勝しました。



15せ

選手名	対戦相手	丹治	関下颯	鈴木奨	遠藤来輝	関下爽夏	笹山幸人	勝点	順位	延長戦
丹治純		○	○	○	○	○	○	5勝	1	
関下颯	×		○	○	×	○		3勝	3	
鈴木奨	×	×		×	×	○		1勝	5	○
遠藤来輝	×	×	○		×	×		1勝	4	○
関下爽夏	×	○	○	○		○		4勝	2	
笹山幸人	×	×	×	○	×			1勝	6	×



第6回 信夫山パークランニングレース 5.27 [日]



2018年5月27日(日)、日曜日、「第6回パークランニングレース～信夫山を桃色に染めよう～」を開催致しました。本年も天候に恵まれ、1,200名を超える登録をいただき、新緑の信夫山を爽やかに駆け抜けていただきました。

本事業は、参加者の方が福島市のソーシャルストックである信夫山の持つ歴史、伝統、自然の魅力を感じ、故郷に誇りを持つこと及び福島の素晴らしさを感じてもらうこと。さらに、信夫山を緑豊かな自然溢れる山という観光資源としての価値を高めることを目的に開催致しました。本年は、昨年と同様福島県護国神社をスタート・ゴールとする10km・5km・3km・3kmペアの他に「名所散策コース」を設定しました。名所散策コースは、岩谷観音などの名所をガイドと一緒にゆっくり歩き、信夫山の魅力を感じてもらえるように設定しました。走るのが難しい方やご高齢の方、幼稚園児など今までパークランニングレースに参加していなかった層を中心に126名の方に参加していただきました。その他のコースでは10kmコースには484名、5kmコースには210名、3kmコースには190名、3kmペアコースには130組260名に参加していただきました。毎年参加者が増えている10km男子コースでは年齢別表彰を導入し、39歳以下・40歳代・50歳以上でそれぞれ3位までを表彰しました。また、木幡浩福島市長、ミス・ユニバース・ジャパン2017福島代表小林愛氏をお招きし、大会を盛り上げていただきました。木幡浩福島市長には3kmコースにランナーとしてもご参加いただきました。年々参加者も増え、遠くは北海道からの参加



者もおり、回数を重ねるにつれてパークランニングレースの認知度が上がっているの感じます。

参加者の方には大会記念のTシャツと食ブースで使用できる400円分の食券、名所散策コースの方へは食券の代わりにオリジナル弁当を参加賞としてお渡ししました。食ブースは信夫山太子堂公園に展開し、福島産の食材をふんだんに使用したお弁当屋や総菜、スイーツが提供されました。昨年に引き続き円盤餃子も提供し、レース参加者や応援に来た方に大変好評でした。開会式やレース後には川俣の山木屋太鼓の勇壮な演奏も行われ、参加者の皆様には信夫山だけでなく、福島の魅力存分に味わっていただけたものと思います。

レース後は、第69回全国植樹祭「森林とのきずなづくり植樹リレー」を実施し、駒山公園へソメイヨシノの植樹を行いました。第1回大会から信夫山を桃色に染めるべくソメイヨシノの植樹を続けて参りました。本年もソメイヨシノ、シバザクラを植樹しました。さらに本年は一般財団法人ふくしま未来研究会様にご協力いただき、御神坂の道沿いにも植樹を実施しました。新たな信夫山の名所誕生のきっかけになれば非常に嬉しく思います。

レース後のアンケートでは、89.4%の方が本事業に満足し、97.6%の方が継続開催を望んでいるという結果でした。また、98.6%の方が信夫山の魅力を感じることができたと回答し、今回参加の福島市民のうち97.1%の方が、本事業を通して福島市への故郷愛を感じることができたと回答しています。本事業を通じて多くの方に信夫山の魅力を感じてもらい、福島の素晴らしさを感じてもらえたことは嬉しい限りです。

最後になりますが、本事業はご協賛いただいた企業様、ボランティアの皆様、メンバーの皆様、信夫山を想う関係者の皆様のご協力があったからこそできた事業です。担当委員会を代表致しまして心より御礼申し上げます。今後も郷土愛に溢れ、躍動出来るまち「福島」を実現するために尽力していきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。





出張わらじ作り事業に参加された子ども達は真剣な表情でわらじの制作に取り組んでいました。また、完成したわらじを履いて大きな声で「わっしょい」と掛け声をかけながら小わらじを担ぐ様子を見て、福島を代表するまつりである「わらじまつり」を肌で感じ、わらじ文化をより深く体験できたものと思います。各小学校から感謝の手紙を頂戴し、この事業の素晴らしさを実感することが出来ましたし、学校側から毎年授業の一環として取り入れたいとの声もあり、地域にとっての必要性も感じる事が出来ました。今回多くのメンバーに講師としてご協力頂き、事業を大成功に導くことが出来ました。ありがとうございました。





■ 55周年記念式典

記念式典では来賓者を含め274名のご参加を賜り、福島青年会議所を支えていただいた方々に式典全体を通して、感謝を伝えることが出来ました。今野陽介理事長より今後のビジョン、次の年代に向けての熱い意志・感謝の想いを伝えていただき、感謝状贈呈では会津JC、南投JC、さらには50代から54代の歴代理事長に対して感謝状をお渡しすることが出来ました。



■ 55周年記念事業

今回の記念事業は、我々福島青年会議所メンバーが常日頃JC活動を行う事を支えていただいている、家族、会社の社員の皆様への感謝報恩を伝え、新たな一步を未来へとつなげるべく開催されました。エキシビジョンとしてJC活動のパネル展示、小わらじ担ぎ記念写真、金のわらじ作り体験、ケーキクラフト、福島ランチブース、音楽芸人こまつ氏による演奏、似顔絵師カリカチュアジャパンによる無料似顔絵体験など様々な催しものを準備しました。当日は289名(南投JC28人含む)の皆様にご参加いただき、大好評となりました。



綱 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島 JC ニュース

FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

福島青年会議所新聞

WEB版 Vol.508

発行責任者 今野 陽介
編集責任者 伊藤 大地
発行日：2019年1月

2018年度 事業報告

理事長 今野 陽介

■一年を振り返って

1963年7月、福島青年会議所は「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下設立されました。創始の精神は、先輩諸兄から英知と勇氣と情熱をもって連綿と受け継がれ今日に至ります。創立55周年を迎えるにあたり脈々と紡いでこられた歴史を振り返るとともに、これからの未来に向かって躍動する年として活動して参りました。

■創立55周年を迎えて

福島青年会議所は、2018年7月に創立55周年を迎えました。今まで半世紀を超える長きにわたり、先輩諸兄の運動はもちろん、地域の皆様、会員一人ひとりに関わる会社・社員、家族など、全ての方々のご理解、ご支援があったからこそ運動を継続することが出来ました。内外からの多大なる支えのもとに歴史を紡いでこられたことに「感謝報恩」の精神で、その情熱を表す創立55周年記念事業、記念式典を創り上げ、300名弱の皆様と共にお祝いすることが出来、これからの未来への決意を発信致しました。また、当日に次代に繋がる記念誌を配布し、これまで携わった皆様と共有することが出来ました。

■会員拡大 志を同じうする者

自己研鑽と同時に明るい豊かな社会の実現を目指すという高い志。最終的に実現したいと目指すものが「目的」、その目的を達成するために具体的に設ける目印が「目標」であり、「志」とは公共性を携え心に思い決めた信念です。志を同じうする者、その「同志」を得る為に、着実に魅力を伝播して参りました。結果、一人でも多くの方々に門

戸を開き、13名の新たな仲間を迎え入れ、共に成長する機会を創出致しました。

■愛する我が故郷のために



福島ならではのソーシャルストック、信夫山の魅力を最大限に発信することで、市民が故郷に誇りを待ち、郷土愛が醸成される事業を展開して参りました。また、安心安全なまちづくりの一翼を担うべく、福島市社会福祉協議会との連携を密にし、防災訓練に参加するなどして、会員同士の災害支援に対する意識の変革に尽力しました。



■未来を担う子ども達へ



福島の明るい豊かな社会を担うのは、今の子ども達であり、地域活性化のためには若年世代の人口流出を防がなければなりません。それには先ず故郷である福島に生まれ育ったことに誇りを持つ社会にしていく必要があります。そして、この福島に住み暮らしたい、そう感じてもらえるよう魅力を発信し郷土愛を育む事業を展開致しました。無限の可能性を秘めた子供たちが将来に向かって一歩前へ出る勇氣を持ち、大きな夢を描くために、「わらしっ子塾」事業を親子と共に参加して頂き、夢を叶える原動力となる志を創出しました。また、健全な心身を育むために、「わんぱく相撲」を開催し、夢と希望をもつ大切さとグッドルーザーの精神を涵養することが出来ました。未来を担う子ども達が、

郷土愛に溢れ、夢を描ける故郷の実現を叶えるべく邁進して参りました。

■愛郷心育むまつりを内外に発信



昨今、福島のみならず、福島のまつりと言え「福島わらじまつり」と、全国のみならず世界にも発信する場面が増えて参りました。この好機を活かし、福島の魅力を全国各地、世界に発信するという志で積極的に参加致しました。また、福島のシンボル信夫山から派生している暁まいりやわらじまつりを通して、関わりのある団体・コミュニティとのご縁を大切に、積極的に交流を図りました。さらに、わらじ作りを通して、地域のシンボルとしての「福島わらじまつり」を市内外に浸透させることも命題に掲げ伝播しました。そして、年間を通してまつりを今まで以上に大人から子供まで多くの市民が参加していけるよう取り組み、より故郷の文化・伝統に誇りを待ち、郷土愛を育むことの出来る機会とすることが出来たと自負しております。

■堅実な LOM 運営と福島青年会議所の浸透力

節目となる本年、今一度気持ちを新たに会員一丸となって堅実な LOM 運営に向けた取り組みをして参りました。また、新入会員を迎え拡充していく中においては、常に会員個人の知識を深め、資質向上を図る事は必須です。例会を通して、人材教育から組織充実を図りました。さらに、我々が行っている青年会議所活動の内容と運動の志を SNS や NCV 様など外部からご協力頂きながら様々な媒体を通して少しでも多くの方々に伝播していくことで、価値を最大限に引き上げることが出来ました。

また、堅実な LOM 運営と会員の人的教育が会の礎となり、対外へ運動を広く発信することで運動の浸透力を高めることが出来ました。

■未来を描く一年に

青年会議所運動が最大の効果をもってまちの発展に寄与するために、将来への中期的な運動指針(60 未来ビジョン)を策定し、より幹のしっかりとした骨太な運営体制を確立して参りました。

■結びに

私自身、歴史を振り返り、新たな一歩を踏み出すこの機会に、個として、会として感謝報恩の精神を宿し、己を律する土台の上に、「楽しくなけりゃ JC じゃない」という心待ちで躍動する一年とすることを命題に掲げ活動して参りました。年間を通して、どれだけその背中を見せることが出来たかは分かりませんが、何よりメンバーの一人ひとりが私の想像を超え、まさに躍動する若き獅子(志士)たちとなって、自ら楽しんで取り組み、私の掲げた職務分掌以上により良いものを作り上げようと悩みながらも切磋琢磨して今年度の我々の運動を更に高い次元に引き上げてくれたと感じています。全てのメンバー、そして我々を支えてくださった全ての皆様のおかげで、一年間重責を全うすることが出来たと心から感謝申し上げます。これからも私はこの大恩に報いるべく「感謝報恩」の精神で故郷を、そして福島青年会議所を最大限に発信し、郷土愛に溢れ、躍動出来るまち福島を実現するべく活動して参ることをお誓い申し上げます。一年間、本当に有難うございました。



優しくある為に強くあれ
我々が率先して躍動することで未来を切り拓く
全ては愛する仲間と誇りある福島の為に

事務局

専務理事 遠藤 武義 事務局長 石郷岡 武 財政局長 菅原 正裕

2018年度、今野陽介理事長のもと、事務局をお預かりいたしました。また、日本JC、東北地区協議会、福島ブロック協議会と連携し、運動を発信いたしました。本年は創立55周年の年ということで、周年関連事業においては、会員の皆様には多大なるご協力をいただき、素晴らしい記念すべき年になったことと思います。また、各種大会等におきまして、登録の面でご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

事務局としては、理事長のセクレタリーをはじめ、各種会議の準備や出欠の確認、資料の配信などに対応し一年間行動してまいりました。

また、財政局に関しましては、1年を通じ財政審査会議を開催し、事業の公益性の確保と、予算の健全性に関する審査を実施してまいりました。

理事各位のご協力、監事の監督のもと、適正な会議運営を行うことができました。

三役、理事並びにメンバーの皆様による多大なるご支援とご協力により1年間無事に事務局・財

政局業務を終了することができましたこと、深く感謝いたします。

そして、事務局員である渡邊真由美さんには本当にご苦勞をおかけしましたが、事務局・財政局、そして会全体を下支えくださいましたことに心より感謝申し上げます。

一年間、本当にありがとうございました。



会員拡大委員会

委員長 番匠 啓太

委員長が5月より休会となり、委員会として全く機能できず、悔しい1年間であった。

委員会メンバーに対しては、運営もうまくいかず、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかしながら、目標には達しなかったが、多くのメンバーに助けられ、なんとか13名の新たな仲間を迎えることが出来た事で、最低限の担いは遂行できたのではないかと思います。

また、委員会が機能しないことで、LOM全体で拡大活動に携わる意識が芽生え、結果として例年並みの拡大を行うことが出来たため、当初の目的である全員で拡大運動を行うという事を実践できたのではないかと思います。全員で拡大運動を行えば委員会が無くても拡大は可能であるという、希

望を示せたのではないかと思います。

なんとか1年間委員会を維持運営することが出来たことは感謝しかありません。1年間ありがとうございました。



福島まちづくり委員会

委員長 佐藤 充孝

本年度、福島まちづくり委員会では、「未来へつなぐまちづくり」のスローガンのもと一年間活動してまいりました。5月には、第6回信夫山パークランニングレースを開催し、全国各地より目標の1,200名を超える方にご登録いただきました。今年は走るだけでなく、信夫山の名所を歩いて回る「名所散策コース」を導入し、年配の方や親子など大勢の方にご参加いただき、ランニングへの参加者も含めて、福島市のソーシャルストックでもある、信夫山の持つ歴史、伝統、自然の魅力を再認識・発見していただくことができました。また、信夫山の観光資源としての価値がさらにあがるように、全国植樹祭に併せて「森林とのきずなづくり植樹リレー」を実施し、参加者と共に桜、シバザクラの植樹を行いました。さらに本年は信夫山の御神坂にも桜の植樹を実施しました。

他にも、4月例会においては浦部博氏を講師としてお迎えし、講演会を通じて福島市のソーシャルストックである信夫山の持つ歴史、伝統、自然の魅力を再認識・発見することをできました。また、平成最後の福島とうろう流し花火大会においては、とうろうで「成」の字をし

たためました。お越しの方が「成」の字と花火のコントラストを写真に撮る姿もみられ、お越しいただいた方々が新たな時代に向けて成就したい思いや願いを込める機会に少しでもなれたのではないかと思います。

さらに福島市社会福祉協議会と福島市総合防災訓練に参加し、連携を深めることができました。

どの事業も準備等大変ではありましたが、委員会メンバー、福島青年会議所のメンバー、OBの皆様のご協力のおかげで滞りなく無事終了することができました。一年間本当にありがとうございました。



福島ひとづくり委員会

委員長 芳賀 眞

第31回わんぱく相撲福島場所では、6名の参加者が集まり無事に開催されました。年々参加者が減少していますが、今年は新たに伊達相撲協会の方々や伊達青年会議所の方と連携をとりより多くの参加者が募るように尽力してまいりました。次年度に向けてより良い関係を築けたと思います。今後、相撲のカルチャーがもっと多くの子ども達に広がっていくことを切に願いながら、少しでも力になれるようこれからも応援してまいります。

第27回わらしっ子塾花火づくり体験、新規事業となった今回の青少年育成事業ですが、子ども達が家族と過ごす時間を増やし花火づくりを通じて家族で一生の思い出を作れました。参加された家族が一緒になって花火づくりを笑顔で楽しそうに経験してる姿を見て、事業を開催して本当よかったと思いました。

打ち上がった花火は本当に綺麗で、参加者にとってかけがえのない時間になったと思っています。この経験を大事に、今後の人生に活かしていきたいと思っています。

第3回ふくしま未来塾では、竹あかりづくりを通じて、講師のCHIKAKENさんからお話を聞き、夢や将来のビジョンを創造していく事業となりました。全国で活躍中

のCHIKAKENさんから、街や村に灯りをともし地域の方々や竹あかりを通じてまちづくりをしていくなど、「やりたいことを型にしていく」大切さを学ぶことが出来たと思います。参加された高校生・大学生が真剣になって意見交換し自分の将来のビジョンを少しでも創造できた時間になったと思います。これからの人生より多くの時間を青少年育成事業に関わっていきたいと思いました。

1年間福島ひとづくり委員会委員長として、貴重な経験と頼もしい仲間ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからの福島青年会議所の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



福島まつり継承委員会

委員長 福井 誠

本年度は、福島のために・・・やったれ！そして、やったる！」をスローガンに委員会を運営して参りました。

第6回暁まいり福男福女競走では、多くの会員メンバー、関係諸団体の皆様より多大なるご協力を頂きました。また、昨年の数を上回る企業様、個人様よりご協賛を頂きました。感謝申し上げます。昨年は初めてテレビCMを採用し、462名の参加者を集めることが出来ましたが、今回はテレビCM無しでの事業告知となり、昨年の参加者数を越えることが出来るか正直不安でした。しかし、継続事業という事もあり口コミで話題に取り上げられたこと、市役所様と連携し市内全ての小中学校にポスターを配布出来たこと、そして、福島ユナイテッドFC様をはじめ保健福祉センター様など団体での参加登録を頂いたことで過去最高となる500名の参加者を集めることが出来ました。これにより、広報に予算をかけなくても十分に伝播力のある知名度の高い事業だという事が実証できたと思います。さらに、民報4社はもちろん、NHKやNCVケーブルテレビでも事業の様子が放映され、NCV様に関してはYouTubeにてタイムリーに事業の様子がアップされました。マスコミ各社にて特集まで組んで頂き、昨年以上の放映時間だったことも本事業の話題性を象徴する結果だと思いました。また、今回の事業内容については暁まいりの由来を知って頂くために、わらじを持って走ることで健脚祈願を表現し、福男福女が米俵を担ぐことで五穀豊穡祈願を表現させて頂きました。そして、カップルで手を繋いで競走してもらう事で縁結び祈願を表現させて頂きましたが、昨年カップルで参加されたペアが今年は何でたく夫婦となり参加して下さいました。参加者アンケート結果では9割の参加者から理解できた、興味が出たとの回答を頂いており、事業目的が十分に達成され、事業が大成功だったと確信しました。

出張わらじつくり体験教室においては、当初5校の予定が3校に減ってしまったことは大変残念に思いますが、次年度以降、告知方法や参加推進方法を見直すことでさらなる素晴らしい事業に発

展していくことと確信します。今回、事業に参加された子ども達は真剣な表情でわらじの制作に取り組んでいました。また、完成したわらじを履いて大きな声で「わっしょい」と掛け声をかけながら小わらじを担ぐ様子を見て、福島を代表するまつりである「わらじまつり」を肌で感じ、わらじ文化をより深く体験できたものと思います。各小学校から感謝の手紙を頂戴し、この事業の素晴らしさを実感することが出来ましたし、学校側から毎年授業の一環として取り入れたいとの声もあり、地域にとっての必要性も感じる事が出来ました。今回多くのメンバーに講師としてご協力頂き、事業を大成功に導くことが出来ました。

第49回福島わらじまつりで開催されたわらじ競走では、今回は参加チームが大変多く、レースのタイムスケジュールがかなりタイトでしたが、メンバーの皆様のご協力を頂き、時間内に無事終えることが出来ました。初参加のチームも増え、わらじ競走が広く市民の皆様へ広がっている結果だと感じました。時間制限がある中、今以上に参加チームを増やしていくことは難しいと思いますが、レース自体の中身を濃くしていければ、より盛り上がるわらじ競走になっていくと思います。今回のアンケートで「来年も参加したい」と答えてくれた方が9割を超え、来年節目を迎える第50回わらじまつりにつなげることが出来たと確信しました。最高の天気とかつてないほどの多くの参加チームに恵まれ、本事業を大成功に終えられました。

1年を通して当委員会の全ての事業に賛同いただきお手伝い頂いたメンバーの皆様、関係諸団体の皆様から心から感謝を申し上げます。次年度もやったれ！やったる！



総務広報委員会

委員長 伊藤 大地

本年度総務広報委員会としては、新たな試みとして「広報」事業を特に SNS やデジタルコンテンツを中心にいった年となりました。委員長として、デジタルに精通した知識が豊富であったわけではなかった為、一年間悩み奔走しました。ほぼ全事業に参加し、情報取得や発信を行いました。結果としては、大した効果を上げることは出来なかった初年度となりました。今後ブラッシュアップを行い、時代に即した効果的な広報手段になることを祈念しております。

総務として例会の設営に関しては、例年通り1月の例会・新年会から始まり、12月例会・卒業式まで、長距離走選手のようにスタミナの必要な委員会であったと改めて感じます。今年度の総務広報メンバーは総務歴の長いメンバーが揃い、運営

に際して的確なアドバイスと、実務的にきめ細やかなサポートをいただいたおかげで、1年間を乗り切ることが出来たと思います。このメンバーでなければ成しえなかった、素晴らしい今年度メンバーに改めて感謝申し上げます。また全メンバーのご協力、1年間ありがとうございました。



55周年実行委員会

委員長 渋谷 崇司

記念式典担当理事 大和田 諒 記念事業担当理事 菅野 太喜 記念誌担当理事 阿部 敏幸

福島J.Cにおける周年は、5年刻みで行っているが、継続事業というよりも、全てが新規事業の為、計画段階でどれだけ想像を膨らませ、そして具現化出来るかを追求することがポイントであると考えている。その為には、予定者の段階で理事長の所信を委員会としてしっかりと浸透させ、決してぶれることのない意識の構築が何よりも重要である。55周年実行委員会は、3名の担当理事が、その重要な部分を全て実行出来たからこそ、大成功に終えることが出来たものと考えている。



感謝報恩、そして未来へ
～躍動せよ若き獅子たち～

